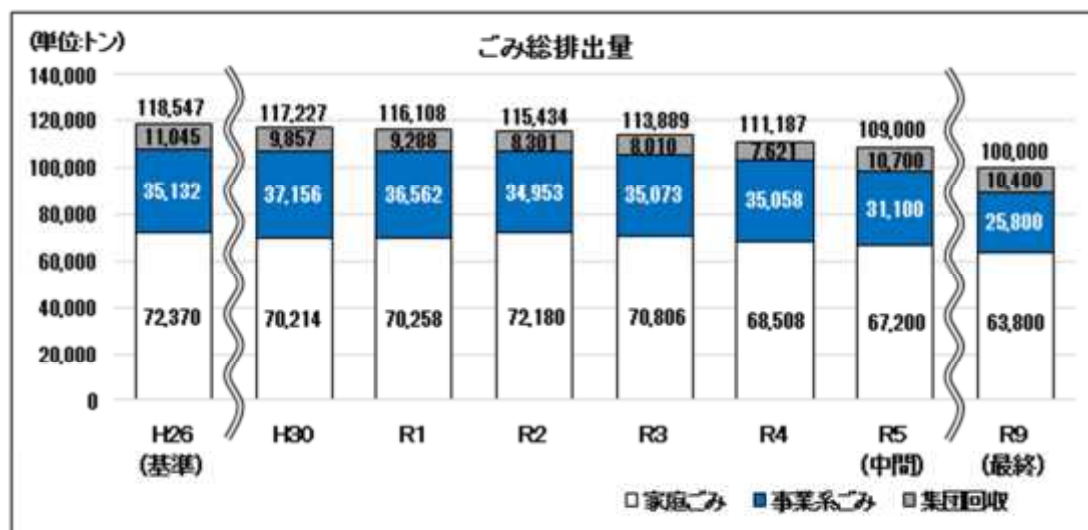


計画の進捗状況の詳細について

1 ごみ総排出量



参考

		H26(基準)	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H30
家庭ごみ	燃やせるごみ	44,614.20	42,301.64	42,391.96	43,190.76	41,768.39	40,914.67	▲ 1,386.97
	燃やせないごみ	8,374.11	8,091.53	8,201.82	8,506.47	8,432.81	7,773.82	▲ 317.71
	資源物	16,284.64	15,675.68	15,525.13	15,978.18	15,939.05	15,425.73	▲ 249.95
	拠点回収	583.46	604.44	628.92	655.58	667.04	629.27	24.83
	粗大ごみ	1,462.25	1,548.76	1,621.26	1,729.79	1,875.32	1,661.23	112.47
	その他	10.24	8.93	6.60	5.48	5.08	5.41	▲ 3.52
	自己搬入	1,041.12	1,982.92	1,882.53	2,113.19	2,118.28	2,097.73	114.81
	小計	72,370.02	70,213.90	70,258.22	72,179.45	70,805.97	68,507.86	▲ 1,706.04
事業系ごみ	燃やせるごみ	32,430.85	33,653.60	32,921.85	31,720.48	31,609.65	31,869.48	▲ 1,784.12
	燃やせないごみ	2,177.03	3,055.67	3,124.94	2,807.87	3,037.31	2,785.74	▲ 269.93
	資源物	524.94	446.65	515.15	424.58	425.62	402.89	▲ 43.76
	小計	35,132.82	37,155.92	36,561.94	34,952.93	35,072.58	35,058.11	▲ 2,097.81
集団回収	11,044.62	9,857.30	9,287.50	8,301.30	8,010.32	7,621.08	▲ 2,236.22	
合計	118,547.46	117,227.12	116,107.66	115,433.68	113,888.87	111,187.05	▲ 6,040.07	

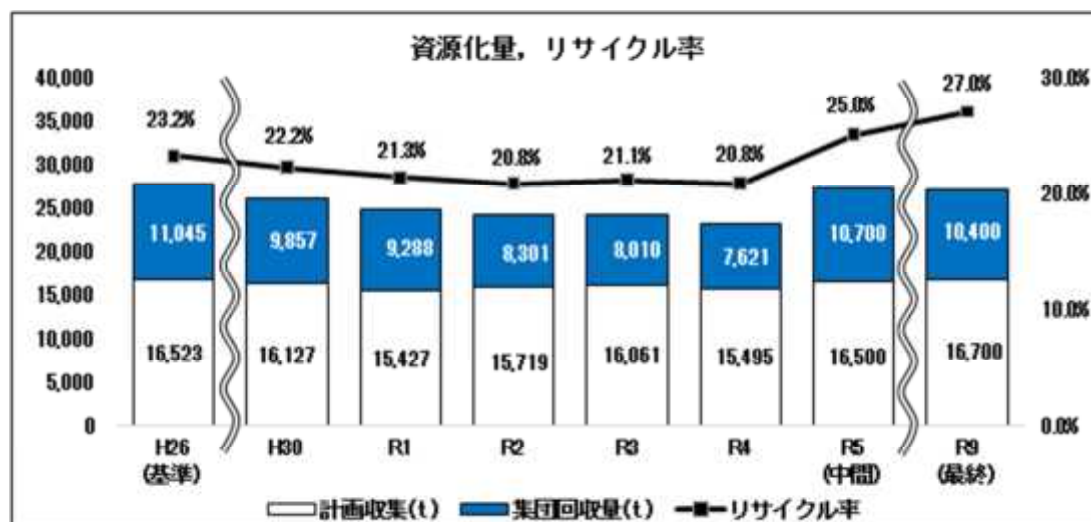
ごみ総排出量（R4）は、平成30年度との比較では減少している。

このうち、家庭ごみは令和2年度に増加し、その後減少しており、中間目標値の達成も視野に入る状況である。内訳は、燃やせるごみが減少した一方、粗大ごみや廃棄物処分場への自己搬入ごみがやや増加している。

事業系ごみ（R4）は、平成30年度との比較では減少しているが、想定する量を大きく上回っており、中間目標の達成は困難な状況である。

また、集団回収量（R4）は平成30年度と比較して大きく減少しているが、これは集団回収を実施した団体が減少したほか、回収資源のうち、紙類の「新聞」が大きく減少したことが要因となっている。

2 リサイクル率



○資源化量の推移

参考

	H26(基準)	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H30
計画収集	リサイクルプラザ	3,712.99	3,669.13	3,067.64	3,134.86	3,125.44	▲ 643.39
	その他の資源化	12,439.40	12,133.43	12,027.43	12,257.18	12,600.08	+ 31.17
	拠点回収	370.46	324.15	332.16	327.03	335.33	▲ 19.29
	合計	16,522.85	16,126.71	15,427.23	15,719.07	16,060.85	▲ 631.51
集団回収	11,044.62	9,857.30	9,287.50	8,301.30	8,010.32	7,621.08	▲ 2,236.22
資源化量合計	44,090.32	42,110.72	40,141.96	39,739.44	40,132.01	38,611.48	▲ 3,499.24
総排出量	118,547.46	117,227.12	116,107.66	115,433.68	113,888.87	111,187.05	▲ 6,040.07

○総排出量に対する資源化量の割合

参考

	H26(基準)	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H30
計画収集	リサイクルプラザ	3.1%	3.1%	2.6%	2.7%	2.7%	▲ 0.4%
	その他の資源化	10.5%	10.4%	10.4%	10.6%	11.1%	0.6%
	拠点回収	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	▲ 0.0%
集団回収	9.3%	8.4%	8.0%	7.2%	7.0%	6.9%	▲ 1.6%
合計	23.2%	22.2%	21.3%	20.8%	21.1%	20.8%	▲ 1.4%

総排出量に対する資源化量の割合について各項目を比較すると、集団回収の割合が最も減少しており、これがリサイクル率減少の大きな要因となっている。

集団回収量の減少はほぼ「紙類」の減少によるものであり、内訳としてその約8割が「新聞」となっている。

3 焼却処理量



○焼却処理量の内訳の推移

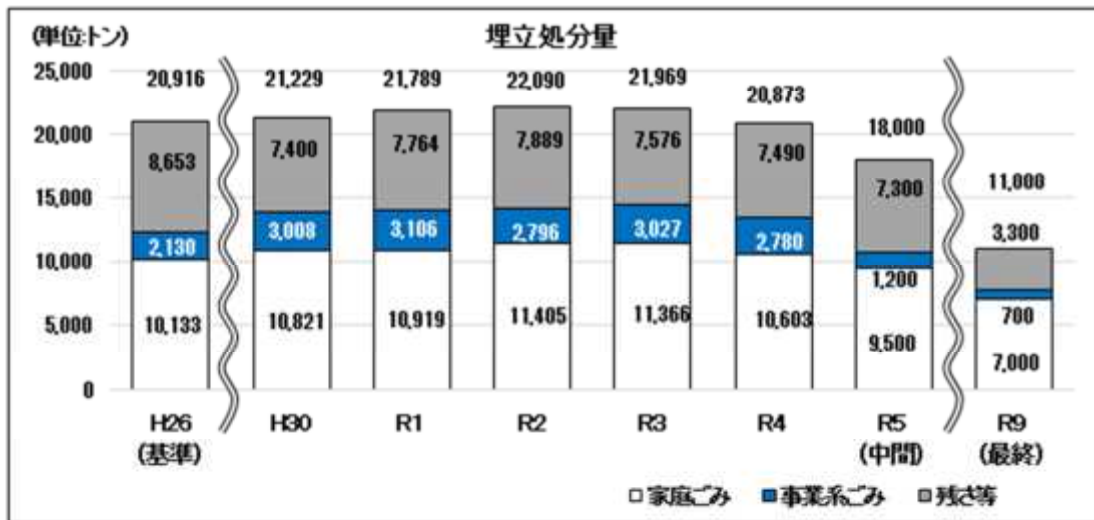
参考

	H26(基準)	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H30	
家庭ごみ	44,614.20	42,301.64	42,391.96	43,190.76	41,768.39	40,914.67	▲ 1,386.97	
事業系ごみ	許可業者	31,359.54	32,637.16	31,773.55	30,006.56	29,931.30	30,602.24	▲ 2,034.92
	自己搬入	1,071.31	1,016.44	1,148.30	1,713.92	1,678.35	1,267.24	+ 250.80
	小計	32,430.85	33,653.60	32,921.85	31,720.48	31,609.65	31,869.48	▲ 1,784.12
鷹栖	可燃	604.11	44.93	0.00	27.15	29.71	29.13	▲ 15.80
資源化残さ	紙容器	60.37	89.37	99.06	124.68	134.43	121.86	+ 32.49
	布類	13.34	8.75	11.00	134.98	85.87	101.92	+ 93.17
	プラ容器	109.70	375.91	422.28	420.17	405.39	366.60	▲ 9.31
合計	77,832.57	76,474.20	75,846.15	75,618.22	74,033.44	73,403.66	▲ 3,070.54	

焼却処理量（R4）は、平成30年度と比較して減少している。

内訳を見ると、家庭ごみは令和2年度に増加したものの、その後減少しており、事業系ごみは令和2年度まで減少傾向であったが、その後ほぼ横ばいで推移している。

4 埋立処分量



○埋立処分量の内訳の推移

参考

		H26(基準)	H30	R1	R2	R3	R4	R4-H30
家庭ごみ	不燃	8,374.11	8,091.53	8,201.82	8,506.47	8,432.81	7,773.82	▲ 317.71
	粗大	1,462.25	1,548.76	1,621.26	1,729.79	1,875.32	1,661.23	+ 112.47
	その他	10.24	8.93	6.60	5.48	5.08	5.41	▲ 3.52
	自己搬入	1,041.12	1,982.92	1,882.53	2,113.19	2,118.28	2,097.73	+ 114.81
	資源化	▲ 754.65	▲ 810.75	▲ 792.51	▲ 950.33	▲ 1,065.82	▲ 935.10	▲ 124.35
	小計	10,133.07	10,821.39	10,919.70	11,404.60	11,365.67	10,603.09	▲ 218.30
事業系ごみ	許可業者	2,010.08	2,901.87	2,969.26	2,707.43	2,910.58	2,664.91	▲ 236.96
	自己搬入	166.95	153.80	155.68	100.44	126.73	120.83	▲ 32.97
	資源化	▲ 47.43	▲ 47.92	▲ 19.16	▲ 12.11	▲ 10.78	▲ 6.15	+ 41.77
	小計	2,129.60	3,007.75	3,105.78	2,795.76	3,026.53	2,779.59	▲ 228.16
	焼却残さ	7,691.45	6,987.72	6,771.85	6,907.11	6,639.20	6,612.78	▲ 374.94
資源化残さ	プラザ	789.04	255.27	814.56	797.88	756.79	659.42	+ 404.15
	ペットボトル	22.62	54.09	64.75	69.33	74.76	109.31	+ 55.22
	プラ容器	145.02	80.45	87.29	92.44	85.03	89.37	+ 8.92
	紙容器	5.39	22.71	25.34	22.43	20.61	19.40	▲ 3.31
	小計	962.07	412.52	991.94	982.08	937.19	877.50	+ 464.98
	合計	20,916.19	21,229.38	21,789.27	22,089.55	21,968.59	20,872.96	▲ 356.42

埋立処分量（R4）は、平成30年度と比較して減少している。

内訳を見ると、家庭ごみは令和2年度に増加し、その後減少している一方、事業系ごみについては増減を繰り返しており、一定の傾向を示していない。

また、資源化残さは令和元年度に大きく増加しているが、これは近文リサイクルプラザにおけるガラスレット資源化業務を令和元年度から実施しなくなったためである。